

創刊に寄せて

多田 博一

世界の政治・経済におけるアジア諸国の台頭を目の当たりにして、1986年に設置された大東文化大学国際関係学部は、東・東南・南・西アジア各地域の政治・経済・社会、歴史・文化・芸術に関する教育に携わってきた。この間1991年には学部付置の現代アジア研究所が設立され、研究会の開催、教科書や研究書の出版、海外提携校からの客員教授の招聘など教育・研究の一層の深化が図られてきた。

国際関係学部創設後14年目の1999年4月に、大学院アジア地域研究科修士課程が設置され、2001年度には博士課程（後期課程）も開設される予定である。

大学院アジア地域研究科は、学部、付置研究所の活動成果をもとにして、政治・経済のグローバル化と民族・国民のアイデンティティーの模索・強化が平行・交錯して展開する最近の世界情勢に鑑みて、欧米の近代的諸価値の伝播過程に関する国際的視野をもつと同時に、アジアの伝統規範の再生に対しても十分な理解をもつ人材に対する社会的要請が増大しつつあることに応えようとするものである。

このような目的に即して、「アジアの現代化」と「アジアの伝統規範の再生」を軸にして、東アジア、東南アジア、南アジアおよび西アジアの4地域の地域研究とアジア地域共通研究を専攻科目とし、現代化・伝統規範再生の過程で発生する個々の問題の解明にあたる関連講義科目を配置するカリキュラムが編成されている。文献研究にとどまらず、各地域の実情を自ら肌で感じて、新たな理論化・体系化を目指すために、海外の提携大学院への留学、フィールドサーベイが積極的に奨励されている。

現在修士課程1年次生12名、2年次生15名が在籍している。2001年3月修了予定者のうち修士論文提出者は7名であり、第1回修了生が生まれる予定である。その修士論文要約を中心にして院生の研究成果を世に問う機関誌として「大東アジア学論集」を創刊することになった。

「東西文化の融合」を理念とする大東文化大学に相応しく、ヨーロッパ中心主義のアジア研究から脱却して、「アジアの立場からアジアと世界を見る」をモットーにして、文献・資料を中心とする研究成果のみならず、地域言語を駆使するフィールドサーベイの成果を盛り込んだ実証的論考が掲載されている。

I T革命の到来とともにこれまで以上に急速に変貌しつつあるアジア諸国の変化・発展の様相・方向を正しく理解し、その成果を公にすることが研究者にとって重要な課題となってきている。「大東アジア学論集」がそのような課題に答える若手研究者の日頃の研鑽成果を公表する場となり、日本のアジア地域研究に「大東アジア学」らしい新風を巻き起こすことを望みます。